

【めむろ未来ミーティング】

令和2年10月8日(木)

19:00～20:25

芽室町ゲートボール推進協議会

■参加者 14人

■芽室町 町長

■記録 玉堀、池田

- 1 開会
- 2 芽室町ゲートボール推進協議会
木村淳彦会長 ごあいさつ
- 3 町長あいさつ
- 4 ゲートボール発祥の地めむろについての町の考え方を説明（スライドを用いて）
- 5 意見交換

■対応等必要事項

ただちに対応をするものではありませんが、各ご意見の中で要点となる部分に下線を引いています。

【木村会長ごあいさつ】

当推進協は、創始者故鈴木和伸氏の思い、「ゲートボール発祥の地めむろ」という日本はもとより世界に誇る唯一の発祥の地であることを、歴史の遺産として芽室町が継続して周知し続けること。また、次世代のそれらを伝承することを目的に、ゲートボールをまちづくりのアイテムとして設立したものです。

その中でまちづくりの大きなアイテムとして、故高橋久雅さん、故岡本晴樹さんらが尽力し、青年、女性、各種団体、地元企業、商店会などが作り上げた「発祥の地杯全国ゲートボール大会」への思いはとりわけ大きなものがあります。

全国に発祥の地めむろを PR しながら、大会参加へのお誘いをしたり、大会そのものに自分たちも参加して課題を感じながら、青少年、特に高校生への

ゲートボール普及活動の手段などを意見交換し、また、発祥の地だからこそその責務として、毎年、各都府県連等を訪問してきています。

その発祥の地杯全国ゲートボール大会においては、年々本州チームの参加減少、大会のマンネリ化、町民の意識や盛り上がりの低下、実行委員会自体が楽しくやりがいのある実行委員会でなくなったとの声もあり、多くの課題があると考えられています。また、さまざまな都府県連を訪問するも、発祥の地杯全国ゲートボール大会に参加したいが、なかなか行けない事情や対策の助言もいただいている。

そこで、昨年の大会前の段階で実行委員長の大谷芽室町ゲートボール協会会长に、大会終了後にはすぐに来年以降の在り方を検討しようと話し、事務局にお願いしてきたところです。しかし、今大会はコロナ禍で中止とはいえ、昨年来、大会終了から幾度となく、今大会に間に合うように協議しようと事務局にお願いしてきたが、いまだ、次年度どころか、来年度に間に合うかぎりぎりのいまの時期でも、各課の調整や町長との調整ができていないということでスタート協議すらできていない状態です。

そこで発祥の地杯全国ゲートボール大会に向けて独自で、芽室町ゲートボール協会大谷会長、芽室町観光物産協会及び当推進協議会の役員の3者において懇談を実施しました。大谷会長や観光物産協会の松山会長からは、熱い思いで、ともに協力しながらおもてなしの大会を継続してしようと語り合ったところです。くしくも、ゲートボールプレイヤーではない者が揃ったわけですが、そんなわれわれこそがゲートボールをまちづくりアイテムとして進めることが責務と考えるところであります。

この間、町では、ゲートボールそのものに対しては、大いに推進をしているということで、特に日本ゲートボール連合（以下、日ゲ連）への職員派遣、手島町長の活躍、日ゲ連や道ゲ連との連携、そして、若手職員の全国社会人大会への参加など新聞誌上などで目にするところであります。しかしながら、これらを含めて考え方や情報について、当推進協議会との共有や連携が少なく、町と我々の活動が乖離している部分もあるように感じます。特にゲートボ

ル発祥の地めむろというのは、地域のこころであり、あらためて町民と意識を共有し、持続可能な活動として、ともに進んでいきたいと考えているところです。

今後の推進協の在り方、方向性を考えるうえでも、また、芽室町、手島町長とともにゲートボール発祥の地としてのまちづくりを共有しようと、本日、このテーマで未来ミーティングを開催していただきました。よろしくお願ひします。

意見交換

【意見①】

1番気になっているのは現在の芽室町のゲートボールの人口である。芽室町のチーム数がすごく減っている。団体競技であり、1チーム最低5人である。でも、1人が辞めて4人になるとそのチームがなくなり、残された人同士でチームを新たに作り、試合に出ていている。しかし、必ず方向性が合わず分裂してしまうという現実。そのため、2022年にはゲートボールをやる人が0人になってしまうと資料に記載してあるが、今言った状態も現にあるので本当にいなくなってしまう可能性はある。

高校生や今の大学生くらいの年代には少しゲートボール人口があるのだが、その間の30代～60代にかけての競技人口が非常に少ない。

ゲートボール人口が減少し続ける原因を考えた時に、やめていく人は高齢化もあるがその他に、試合中に失敗した人に対して注意が厳しい等で、面白くやっていたはずが、いつの間にか面白くなくなっている。町長の資料にもあるように、まずは楽しくゲームをやってみて、その後に勝ちたくなってきたらおのずと練習すると思うのだが、現状ではそういう状態に全くなかった。

なので私が思っているのは、老人会単位のものはあるが、競技人口が少ない層へのアプローチとして、職場対抗、学校対抗などとの企業や団体の単位で、ボーリングや朝野球などと同様に団体でチームを作り、競技をやるようにしてみるといいと思う。私も「競技」としてやらないと、チームを作り、集まって練習しようというようにはならないと思うので、「競技」として進めるこ

とは賛成である。このような大会などをまずはやってみることで少しづつ普及に繋がると考えている。

役場にも若手職員のチームができたと聞いたが、対抗するライバルがいるともっと伸びていくのではないか。例えば町内の民間企業のチームだとかを誘ってみるのもいいと思う。その辺について町長の意見を聞きたい。

【町長】

確かに、大学生以下の人にどんどん誘っても、競技人口が急に増えることはないと思うし、指摘があつたように30～60代の競技人口は特に薄い状態である。そういう意味では、提案があったような職場対抗のようなものも非常にいいと思う。芽室町ゲートボール推進協議会が開催している大会もあると思うが、町の推進策として社会人が気軽に出来るような、失敗をしても注意されるではなく、励ましあえるような大会を町内でやることもありだと思う。非常に貴重なご意見だと思う。

推進策を話していく、どうしてもその年代に対するアプローチというのが非常に難しいというのが実態ではある。日本ゲートボール連合の方と話しても、その年代は、仕事を持っているため難しいという話が上がる。逆にそうであれば民間会社に福利厚生の一環として職場対抗を行ってもらえないかなどのアプローチの仕方はできると思うので、それは面白いと思う。工業団地にも多くの職場があり、参考にさせていただく。

【意見②】

町では、各種団体のパークゴルフ大会が20くらいあるが、台風やコロナウイルスの影響で1、2年くらい活動できていない。なので、各種団体に、ゲートボールを冬にやってもらえばパークゴルフの会員もやる機会があると思う。各種団体には、どこがトップというのがない。もし冬にできるようになれば、町長などのトップから各種団体などに声掛けをしてもらいたい。今まで誰に話したらいいのかわからなかったが、今回の機会に話してみた。

【町長】

率直にいいと思う。呼びかけについても事務局の会議の際に話をする。面白い意見で参考になる。

【意見③】

私はこの協議会に入ったのが昨年であり、ゲートボールは1、2年しかやっていない。正直言うとルールも良く分かっていない状況である。資料にもあった育成のローカルルールを作りの部分について。ゲームをするのに最低12人必要である。プレーヤーが5人ずつと審判が2人。この人数がいないと成立しない競技である。であれば、例えばハーフみたいな形の人数3人ずつと審判1人でやるという形ができれば若い方にも「ちょっと時間があるならやってみないかい」と声かけでき、それで参加してくれるかもしれないと思った。それで実際にやってみてレベルの高い5人チームの正式ルールの方に段階を踏んで進む方もいるのではないかと思う。なんせ、ゲートボールに触れることすら難しいのかなと思う。また、どんなスポーツでもいきなり5人集めるのは難しいと思う。パークゴルフの人口が大きく減っていないのは、やはり少人数でできることがあるからだと思う。短い時間で、少ない人数でできるという手軽なルール作りも必要ではないかと思う。

【町長】

少人数に関しては、日本ゲートボール連合の方にも話している。正式ルールにするのではなく、地域地域で振興のためにやる形ということはいいと思う。また、実際に3人制などは実施されているのが現状です。

おっしゃるとおり、とっかかりを作るにも触れる機会を増やすことが大事なので、おっしゃるとおりである。

また、ローカルルールについては、スパークなど初心者には難しいことなどは、なくすだとか、アウトボールをなしにしたらどうだろうかという話も出ていた。なので、そういう工夫で、触れる機会を少しでも増やせるようにするのが必要であると考えている。

【意見④】

今日、このテーマでめむろ未来ミーティングができる本当に良かった。ゲートボールの推進について町から、色々な意見が出ている資料を見せてもらえたし、少し安心した気もする。

私たちめむろゲートボール推進協議会は、何年も活動しているが、今日少し残念だったのが、こんな良い案がたくさんあるのに、推進協の耳にはあまり入ってこなかったことである。こんなにも進んだ町長の考えがあるのかということが、ここに来てやっと半分以上わかったこともある。もう少し推進協と、情報共有・連携をとってほしいなという気持ちもある。

町長は推進協に、今後何を求めているでしょうか。

【町長】

情報について、しっかり伝えていなかつたことに対する申し訳ないと思っている。

まずは役場の中で考えられることを考えて、この案はまだ土俵にも拳がっていない部分もあるため、もっと具体的にどうやって進めていくのかという段階になった時に私としては、推進協さんにも呼びかけをし、こんなようなことはできないだろうかという詳しい話をしたいと考えていた部分もある。

今後は、こうした案に対して、具体的に動かないといけない段階である。その際に、町民の組織もある推進協の皆さんに、どういった部分をやっていただけるかや、町としてこの部分をお願いしたいなどの意見交換の話し合いを踏まえて進めていきたいと思っており、これからも呼びかけをさせてもらいたいので、ご協力をお願いしたい。また、今日の意見等をいただいている部分も大きいので、今後もこのような機会を設けさせていただきたい。また、今日出た話は、しっかり担当の方にも共有していただきたい。

【意見⑤】

町長の話を聞かせていただいた中で、ゲートボールに関わって私は数十年経つ。今日に至って各方面、全国各地に自費で都道府県あらゆるところに、あいさつや発祥の地の大会に来てもらうお願いをしに回っていた。

また、白樺学園高校にコートまで作ったり、道具などを入れる物置を用意しながら、ありとあらゆることをやってきた割には、その成果が残念ながらなったのかなと思っていた。

でも、いま町長の話を聴いて、またここから新たに発祥の地として、ゲートボールがなくならないようになるのだなど安心させてもらった。これからも町に力を貸しながら、推進協としても頑張っていけたらと思います。

【町長】

今まであまり意見交換をできていなかった部分も反省しつつ、推進協の皆さんと町が考えていたことは大きく離れていないと思っている。ですから、同じ方向を向いていると思うし、今までの推進協の動きは継続してもらうこと、プラス時代に合わせて動画やSNSなどの手法を加えながら、さらに競技人口増やしていくよう頑張っていきたいと思う。よろしくお願ひします。

【意見⑥】

観点がずれるかもしれません、まず、新しいセクションではなくとも、担当を社会教育課にし、力を入れていくというのは我々も賛成している。

その中で、何が理想かというと、もともと7年前に朝霞高校の校長先生を呼んだ際、ゲートボールは、お年寄りと高校生が一緒になって教えたり、ハイタッチをしたりできる、その後結婚の相談をしたりという人間関係ができる、「まさに社会教育の原点である」と話していく、私自身はその通りだと思ってきました。基本的にはそういったスポーツである。

高校生の大会では、協会の方たちは、自分たちは競技せず、バックアップして応援している実態であるのでこのことを行政としても考えてほしい。

また、今後の策については、町から説明があった案は、まさに先進的な話である。以前、日ゲ連の中村常務と「ゲートボールはゲートボールプレイヤーじゃない人間も考えなきゃだめだな」と話したことがあったが、役場から出ているアイデアもそうした必ずしもプレイヤーじゃない人が外から見て、このゲートボールというスポーツを魅力的にするにはどうしたらという視点で考

えたアイデアであり、そういった観点から、こうした先進的な話が出てくると思いました。

こうしたアイデアを形にしてゲートボール振興を図るには、情報公開をする必要があるが、それ以前に、かつてはまちづくりの中で、発祥の地杯全国ゲートボール大会をやった。そうしたメンバーを中心に、イリスフェスタの実行委員だとか氷灯夜の実行委員だとかいろいろな形の実行委員会というのが、町民の中から立ち上がりてきて進んでいき、そこに青年団体などが一緒にになっていく流れがあった。そういう流れがあったので、町民も芽室町は発祥の地だからポスターをはろうとか、応援しようだとかという流れがあったが、昨今はやはり発祥の地ということ自体も町民がなかなか希薄になってきている。町の観点としてはそこも並行して力を入れてもらいたいと思う。

それと、各都道府県を回っていて、やはり「高校生」の話が出る。高校生の振興について意見交換している中で、ある高校に行って話を聴いたら、県で2つの高校が試合をできれば高校総体（インターハイ）ができる競技もあるらしい。ところが、ゲートボールがそんな状態でいくつかの少数の高校でもできる状態なのに、なかなか高体連は認めてくれない。発祥の地「芽室町」として、こうした少数派のスポーツでも認められる例はあるのだから、高校生のインターハイを北海道で、芽室町でやるということにも力を入れていきたいと考えているので、一緒に町も取り組んでもらいたいと思うがどうか。

【町長】

私も色々な場面で、郷土愛等の言葉を使用している。ゲートボールもこの町の資源なので、郷土愛につながるような誇れるようなものになってほしいなと思っているので、今のご意見もありがたい。

単純に競技としてゲートボールをやるというわけではない効果に期待もしているし、推進すべきと思っている。

また、後半の話について。たまたま目の付け方が十勝管内だったが、それは全道でも参加してもらえるなら構わないし、何かキッカケとしてまず企画してやってみないといけない。そして、最終的には強豪校

を招聘してやれるといい。

ひとまず、呼びかけだけは、まず管内あるいは道内で行いたい。

あとは、マスコミも活用しながらPRしていきたい。

来年度予算では取り組みたい気持ちもあるが、調整が必要である。

運営の際にはご協力をお願いしたい。

【意見⑦】

①今の既存の発祥の地杯の協力体制について、今後どのようにしたいのかを知りたい。競技志向に向かっていくということは理解しますが、やはり発祥の地にせっかく遠方から来てもらった後は、観光などでも何回も来たくなるような大会を目指してほしい。そこにはやはりまちづくりの観点も必要だと思う。

全国を周り、声を聞くと、大会のついでに観光をしていきたいという声が当然ある。それであれば何か観光とセットで大会開催案内をするだとか町を知ってもらうことに対するもっと取り組んでもらいたい。

②教育現場の関係で、小学生の総合学習で体験学習があり、中学生も似たような学習が進んでいるが、そんなに時間を割いていないのかなと思う。せっかく芽室町で生まれ育った子どもたちに大きくなつてから発祥の地であるという誇りみたいな町の財産を知っていく機会にもう少し時間をかけたり、ただ打ってゲートを通すだけではなく、もう少し先のことも知ってもらえる機会があれば嬉しい。そこで、以前、青森に行った際、学童保育でやらせているという話を聴き、これはいいなと思った。お年寄りが学童児童に教えていくような流れができていくのだと思う。そのようなツールとしてもゲートボールは最適だし、これからコミュニティスクール（以下、CS）となっていく中で、地域が子どもたちを育していくというのにゲートボールはすごくいいと思う。なので、学童から初めてみるとすごく普及するのではないかと思う。

③また、芽室町として役場に「専門部署」がある方がいいと思う。その部分の町長の考えを聞きたい。来訪者の対応などもあって、やはりここに聞けばという専門部署が欲しい。

④最後に、推進協の補助を町からもらっている年

間20万円。これからも連携していく中で、今後も前向きに支援の方をお願いしたい。推進協の中で今年度（先日）ポスティングで、広報誌も作させていただいた。そんな動きもあり、ますますの支援をお願いしたい。

【町長】

①今後のゲートボールを推進するために何かシンボル的な活動や大会等でまずは動かないといけないと思っている。あるいは、ターゲットを絞ってやるなど。漫然といろんなことをやろうとしても現実に効果は表れにくい。しかも、切迫した状態で、私も危機感がある。早く何かをアピールしたり、アクションを起こさないといけない気持ちが、手元のお示しした資料への表れでもある。

今後、いろんなことを通じて学校、各地のゲートボール連盟、高校生の大会などの動きに、現実に結び付けていかないといけない。

日ゲ連と歩調を合わせながらということも重視しつつも、発祥の地めむろとして、テコのようなものになればという思いで、職員を派遣しているという側面もある。私たちの提案もぜひ受けてほしいという思いも込めている。うまく私たちが企画を出して、採用されていけば、これまで話したような大会だとが実現できるだけの財源も日ゲ連さんにはある程度あるといわれている。

②それと教育の観点のご意見は学童でというのも大変良い意見であると思いますし、CSについても、一貫の中で世代間交流としてゲートボールを扱ってもらうというのはよいことと考えており、ぜひ推進していきたい。

③役場組織について、まだ具体的な動きや激しい動きになっていない段階ではまだかと思っているが、今のような案がどんどん出て来て前に進んでいくのであれば人員を増強だとか、独立だとかにしてゲートボール係みたいなものというのには可能性があると思っている。あとは、何をやるかということが明確化しないと係が設置できないものもある。業務的な整理をしながら検討していく。

④最後に推進協の補助金の話は、これから皆さんに何を担ってもらうか、どういう活動していくかによ

って必要な経費があれば当然、補助を増やしてといったことなる。

先ほども言ったように皆さんとディスカッションして役割や目的を整理した上でやっていくのがいいと思う。せっかくこの組織を作つて活動していらっしゃるので、何か成果や、やりがい等が見えるような活動をぜひ担つてほしいと考えています。

【意見⑧】

前の意見の①の中で、発祥の地杯大会の今後の協力体制についてはどのようにお考えか、もう一度お伺いしたい。推進協としても、変えようという話は盛り上がっているが、はっきりしていない状況。

【町長】

発祥の地杯について、今段階で考えていることは、今まで体育会が入っていたが、体育会とゲートボール協会は体育会の中のゲートボール協会という位置づけであるということを見直し、体育会の方は、役割を終えるというのが一つ。

もう一つは、競技性ということになれば教育分野だと思っている。先ほどの子どもたちへの普及などを考えても、教育が相応しいと思う。先ほどの意見の想定はまちづくりに力を入れていくべきではということだと思うが、私としてはその前に、競技人口だとか若手世代の育成だとかをまずは喫緊でやらないとその先の将来のまちづくりにつながつていかないと思っている。

そんなことで社会教育課を中心にしていきたいと考えている。

また、推進協が大枠で発祥の地杯大会を担ってくれる話については、もう少し検討させてほしい。これは、企画や商工観光の部署が一気に抜けるということではない、おもてなしの部分やゲートボールのまちづくりというところで引き続き関わっていく。徐々にというところでは、おもてなしというところでは、観光物産協会に担つてもらおうといったことは出てくるかもしない。さまざまな観点からもうしばらくは、中心を社会教育に移しながら、それぞれのセクションが関わつて進めていく方向としたい。

【意見⑨】

30回以上やってきて、まちづくりという観点を除いたとしても、やはり地域住民が作り上げたものであることからも、これまで携わつたところとも議論していかなければならないのではないか。

大会そのものが、関わり方として青年など各団体を巻き込むということであれば、行政は先頭に立つが、主体は町民と思うので、その観点は失わず積み重ねてほしい。

【町長】

明確には、どんな形を推進協は描いていますか？

【推進協会長】

先ほど述べた3団体との議論の中では、ここまで輪番制の実行委員会にしてきたが、農協の青年部長に実行委員長をやってもらおうとか、昔のような体制づくりをしていかないと芽室町全体で発祥の地なんだという意識をもう一度浸透していくには、必要なのではないかということが議論として出ている。そのことが良いのか悪いのかはわからない。

ただ、町が描いている推進策というのももちろんやらなければならないが、推進協の目線は、ゲートボールそのものを子どもたちにどう根付かせようかとか、高校生の競技としてどうしようといった目線であるので、町の目線と推進協の目線の両輪で進めていかなければならないのではないかと思っている。目的・目標は共通しているので、お互いの役割をそれぞれ果たしていくべきなと考えている。

また、現実に、当時のねんりんピックに来た人が、また発祥の地杯大会に来て、めむろで食べたトマトをmた食べたいなどというような（観光や町を楽しむ）観点で来ている人も現実にいるので、大会そのものについて、まちづくりという観点も忘れずに取り組んでもらいたいと思っている。

【町長】

大会については、もう少し明確にしていきたいと考えている。最終的な在り方をすり合わせる場をもう少し作っていきたい。

町民の方の力で大会を成し遂げるということと町が担う役割の範疇を考えながらやっていきたいと思う。

【意見⑩】

今回、町長との未来ミーティングということで推進協の会員全員に声をかけた。その際、今回参加できない方で、町長への意見・要望・質問等を受け付け、何点かあった。

我々はこれから何を担っていくかのか重要であるし、会長の言うように発祥の地は唯一無二で間違いはないのでこれをどう活かしていくかが本筋であると思う。今後も色んな機会を通して、ざくばらんな意見交換をしていけたらいい。未来ミーティングという形でなくとも交わしていくべきだと思っている。

繰り返しになるが、世界唯一の発祥の地の芽室をどうPRしていくか、また、若い世代特に高校生への振興などを推進協議会に任せさせていただけないかと思っている。

これ以外の受付したものは別の機会にお話ししたい。

ことのほうが多いのではないかと思っている。

【ミーティングの様子】



【町長】

皆さんの活動できる範囲がどのくらいできるかにもよると思っている。

教育委員会の職員は当然仕事としてやるが、町が全部やってしまうことは、町民の皆さんの中ではということにならなくなってしまう懸念がある。しかし、一方で推進協に全部任せようなどと、推進協に相当負担がかかってしまいどうなるのかという危機感もある。よって考えとしては共に連携して共に動くのが良いと思う。あるいは、振興の部分のこの部分だけは推進協に任せることも明確にするのも良いと思う。

今までの活動を見たら、高校生の推進をやってきたというところでそうしたノウハウは得意な分野だと思っているので。そういうところはお任せできる